

症例報告

茅ヶ崎徳洲会総合病院初期研修医二年目

関 藍

悪性症候群類似病態をきたした低酸素脳症児の一例

症例は18歳女児。染色体異常を指摘されており軽度精神遅滞があったが日常生活は自身で行えていた。15歳初経を迎えた後、側湾症が悪化したため鹿児島県の病院で手術を施行。術後の合併症で低酸素脳症となり、その後はコミュニケーションも難しく寝たきりとなっている。栄養は胃ろうを使用。気管切開は閉鎖後の状態で2年前に当院に転院となっていた患者さん。その後、ときどき頻呼吸・発熱発作認めていたが二年間特に変化無く経過していた。現在の処方薬はダントリウム・大建中湯・YM散・セルシン。

2010/8/3 深夜、いつもの頻呼吸・発熱発作がおさまらず内科当直コール。

バイタル：血圧測定不能 呼吸数 50回 脈拍 150回 SPO2 90%台（リザーバー全開）

身体所見：全身筋硬直著明 発汗著明 stridor 様呼吸音 奇異性呼吸あり

採血；別紙参照

血液ガス：PH7.404/CO2 25.7/O2 357/HCO3- 15.7 挿管後

レントゲン：右下肺野に consolidation？

血液培養；後日陰性

痰培養：後日緑膿菌検出

- ・鑑別診断は？
- ・悪性症候群の診断基準は満たすか？
- ・悪性症候群であるとするとその原因は？
- ・同様の発作をいまでも繰り返しているがその対策は？

